

自律・協働・参画



笹塚中だより

渋谷区立 笹塚 中学校 (令和3年1月12日発行)

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/sasadukaj>



各新聞社の元日の社説から「2021年の学校教育」を展望する

校長 駒崎 彰一

一般社団法人新聞協会のデータによると、新聞発行部数は、新聞販売収入とあわせ、総じて減少を続けている状況にあり、特に若者世代の「新聞を買わない・読まない・評価しない」ことがデータから読み取れます。インターネットがスマホを通して個人にまで普及した現在では「情報はタダ(0円)」で入手できると新聞を切り捨て「新聞離れ」が今後も進行していくことが予想されます。しかし、新聞は、単にニュースを配信する「NEWS PAPER」としての機能だけではなく、社説やコラムを通して様々な「見方・考え方」を知る「OPINION PAPER」としての機能があるといわれており、新聞紙面は「事実を知る」だけではなく「多くの考え・意見を知る」という利用もできます。特に、「社説」は、日々生起する政治、経済、社会などの時事問題について、各新聞社の主張や考えを各社の責任において掲載するもので、日本の「今」の「見方・考え方」をタイムリーに捉えるものであると考えています。新年元日、各新聞社の「社説」を読み解くことで、2021年の「学校教育」について考えていきたいと思えます。

読売新聞は「平和で活力ある社会築きたい 英知と勇気で苦難乗り越える」と題し、冒頭で「感染抑止が最優先課題である」として「何よりもまず、コロナ禍の収束に全力をあげるべきである。経済との両立が必要なのは当然だが、感染の拡大を抑えないことには経済活動も順調に回転するはずがない。」と主張しています。さらに「ピンチはチャンス・・・なすべき改革を断行し、苦難を乗り越えて、平和で健康な、そして活力ある社会を築き直す好機としなければならない。今年はその出発点となる。」とまとめています。コロナ禍を機に、これまで何も考えることなく繰り返してきた事を根本から見つめ直し、英知と勇気をもってドラスティックに「変える」ことで苦難を乗り越えることができるのではないかと「前向き」に考えさせられます。

また、「変える」ということで「デジタル化」について、「国と地方の行政手続きなどは、システムをデジタル化して、国民の利便性を高める必要がある。しかし、教科書のデジタル化となると話は別だ。デジタル機器の動画や音声を副教材として活用するのは有効だろうが、紙の教科書をやめてデジタル・タブレットに切り替えるなど、本末転倒も甚だしい。書物を読み、文章を書くことで人間は知識や思考力を身につけ、人間として成長する。教育の基本を間違えてはならない。」と主張しています。

昨年度、「電子国家」が構築されているエストニアを訪問する機会がありました。行政サービスの99%がオンライン化され日本より10年以上確実に先進していると感じました。教育分野でもデジタル化を進めており、学ぶべきことがたくさんありました。読売新聞の主張のように、単にデジタル化するだけでは間違いなく「本末転倒」となってしまうと思います。エストニアでは、デジタルの利点を追究して、機器を「ツール」として活用することが主に考えられていました。単に「教科書のデジタル化」で利用するのではなく、先端技術をツールとして「使い方を学ぶ(有効活用する)」ことが重要であると考えています。

日本経済新聞は「2021年を再起動の年にしよう」と題して「新型コロナウイルスの感染爆発は世

界の景色を一変させた。今年はそこから立ち上がる再起動の年にしたい。」としています。「今年之最優先課題はコロナ感染の封じ込め」としながらも「同時にコロナ禍で表面化した問題の解決に向け行動をおこす再起動が必要だ。」として、「経済」「民主主義」「国際協調」の3つに重点を置く必要があると主張しています。

特に「国際協調」というキーワードが学校教育では重要であると感じました。「コロナ対策や地球温暖化対策など、いずれも一国では解決は難しい地球規模の問題について、日本は国際協調の立て直しに積極的にかかわるべき。」とも主張しています。これからの時代は、一人の考え、一つの組織の考え、一国の考えでは解決することができない事が多く出現するといわれています。多様な考えのある他者と「協調」して「問題を解決する」といった「協調型問題解決能力(Collaborative Problem Solving)」の育成が重要であると改めて感じました。この育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を追究していきたいと思えます。

毎日新聞は「コロナ下の民主政治 再生の可能性にかける時」と題して、日本経済新聞でも重点の一つとした「民主主義」について主張を展開しています。「コロナへの対応に完全な答えは見つからない。(中略)私たちの民主政治がコロナへの対応能力に欠けているのではないかという疑念だ。民主政治は合意過程を重要視するが故に、意思決定に時間がかかるという欠点が指摘されてきた。それがコロナという容赦のない敵との闘いで顕在化した。(中略)一方で、世界で最初に感染者が確認された中国は都市封鎖やIT(情報技術)を駆使した国民監視などの対策を、持ち前の強権政治により一気に進めた。感染拡大を早々に抑え込んでみせた。」と解説し、「気づきを変革に生かす」として「民主政治は間違える。けれども、自分たちで修正できるのも民主政治のメリットだ。手間はかかっても、その難しさを乗り越えていく1年にしたい。」とまとめています。学校でも「試行錯誤」を繰り返し、失敗に気づき自分たちで修正を続けながら一つ一つの課題を乗り越えていきたいと思えます。

東京新聞は「年のはじめに考える コロナ港から船が出る」と題して、「人間性を心にとどめよ」と主張しています。「実際に船に乗り、船の針路を描くのはやはり人間自身です。(中略)「人間性」とは英語の「ヒューマニティー」。人間だけが生まれ持つ人間らしい心情。自分以外の人間に向ける「思いやり」のような心でしょうか。(中略)人間性の結集こそが、核や疫病などの脅威に協調して立ち向かう力になるということでしょう。分断、対立を乗り越えて。協調の未来へ。私たちが取るべき針路の示唆かもしれません。」と主張しています。人間性、「思いやり」のある心、集団生活で学ぶ学校教育の基本です。

朝日新聞は「核・気候・コロナ 文明への問いの波頭に立つ」として、核兵器、環境問題、新型コロナという「世界規模の問題」の三つについて主張を展開しています。「世界は覚醒できるか」として「コロナ禍で傷んだ経済の再生を、脱炭素や生態系の保全といった気候変動への取り組みと連動させようという機運が生じている。「グリーンリカバリー(緑の復興)」である。「経済を回す」ことを単に取り戻すのではなく、環境に目配りし、次代の人類社会の姿を描きつつ、二兎を追う。」と解説し「命か、経済か。時に口の端にのぼった二分法からの、発想の転換とっていい。」と主張しています。さらに「未来の当事者が動く」として「環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんをはじめ、様々な領域で若い世代が声を上げていることは心強い。未来社会の当事者たちが、このままで人類は持続可能なのかという問いの波頭に立っている。」とまとめています。

現在、中学生の皆さんは、まさに「未来社会の当事者」です。柔軟な発想で多様な他者と協調しながら「世界規模の問題」を解決する人財として育ってほしいと思えます。

パラリンピック教育 共生社会の実現に向けて

12月18日(金)にパラリンピアン永尾嘉章選手にご来校いただき、パラリンピック学習を実施しました。永尾選手は、パラ陸上の短距離の選手としてパラリンピックに7大会出場しているメダリストです。より良い共生社会を実現していくための障害者理解についての講話はとても印象的で、生徒も真剣に聴いていました。実際にレーサー（陸上競技用車いす）に乗せていただき、とても貴重な体験もさせていただきました。生徒の感想から、もし車いすの方や障害者の方が困っていたら声をかけていきたいなど、多くの学びが感じられました。



校外学習

12月11日(金)には、感染症防止対策を十分に取しながら、1年生と2年生は校外学習を実施しました。班行動を通して協働学習を実践し、これからの社会をたくましく生き抜いていける資質・能力を育てていく良い機会となりました。また、ICTを有効に活用した事前事後の学習および当日の定時連絡などを通して、情報機器の活用能力を高めることもできました。

<2年生>

小江戸と呼ばれている川越の歴史を探求することで、日本の良さを十分に理解するとともに規範意識や公共の精神等を学び身に付けることを目的として取り組みました。修学旅行に向けた事前学習の一環でもありましたが、緊張感をもって行動することができ、より良い修学旅行の実践に繋げることができました。



<1年生>

近未来都市のお台場方面において、プログラミング学習やICT機器の活用に興味をもち、Society5.0の実現を目指す意識をもたせることを目的として取り組みました。持参したタブレットを上手に利活用し、「One Note」アプリで記録を残したり、資料の収集にはカメラ機能を活用したりするなど充実した学習ができました。



1月の生活目標

大切な命を守るために行動しよう

感染予防をすることは、自分だけでなく
大切な人の命を守ること

1月の安全目標

感染防止対策を万全にしよう

- ・3密の回避、手洗い・マスク・咳エチケットの徹底
- ・休み時間は静かに過ごす（大声、至近距離での会話禁止）
- ・飲食時の飛沫に細心の注意！



1月・2月の主な行事予定

1月			2月		
日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	金	元日	1	月	全校朝礼 安全指導
2	土		2	火	
3	日		3	水	
4	月		4	木	
5	火		5	金	
6	水		6	土	
7	木	冬季休業日(終)	7	日	
8	金	全校集会 給食始 第Ⅳ期時間割始	8	月	
9	土		9	火	
10	日		10	水	専門委員会
11	月	成人の日	11	木	建国記念の日
12	火		12	金	
13	水		13	土	土曜授業 タブレットの日 新入生説明会 ボウリング教室
14	木		14	日	
15	金	オリンピック教育授業(フェンシング)	15	月	生徒朝礼
16	土		16	火	避難訓練
17	日	渋谷区防災点検の日	17	水	
18	月	全校朝礼 安全指導	18	木	学校保健委員会
19	火	脊柱側わん検診(2年)	19	金	
20	水	専門委員会	20	土	
21	木		21	日	都立1次分割前期入試
22	金		22	月	修学旅行前検診(3年)
23	土	土曜授業	23	火	
24	日		24	水	学年末考査 修学旅行
25	月	生徒朝礼	25	木	学年末考査 修学旅行
26	火	都立推薦入試	26	金	学年末考査 修学旅行
27	水	都立推薦入試	27	土	
28	木	避難訓練	28	日	
29	金		※行事予定は変更になる場合がございますので、本校ホームページでご確認ください。		
30	土				
31	日				

新しい年も保護者・地域の皆様とともに、本校生徒のために教職員一丸となって教育活動に取り組んでまいりますので、引き続きご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。